



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

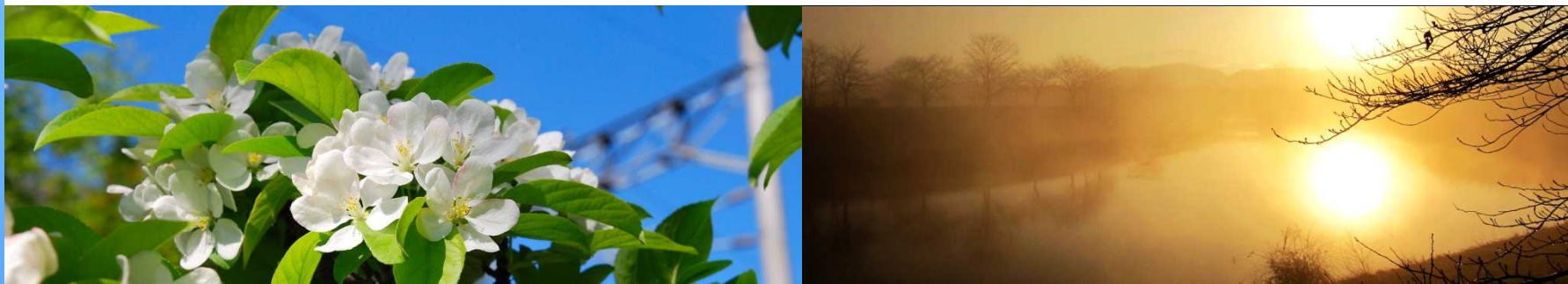
領域サロン 第2回 (1月23日)「ボランティアツーリズムの可能性と課題」

日時:2012年1月23(月)17:00~19:00

場所:K's五番町ビル 2階セミナー室



ボランティアツーリズムをいかすための 地域プラットフォーム ソーシャルな設計・構築・マネジメント



敷田麻実(北海道大学観光学高等研究センター)

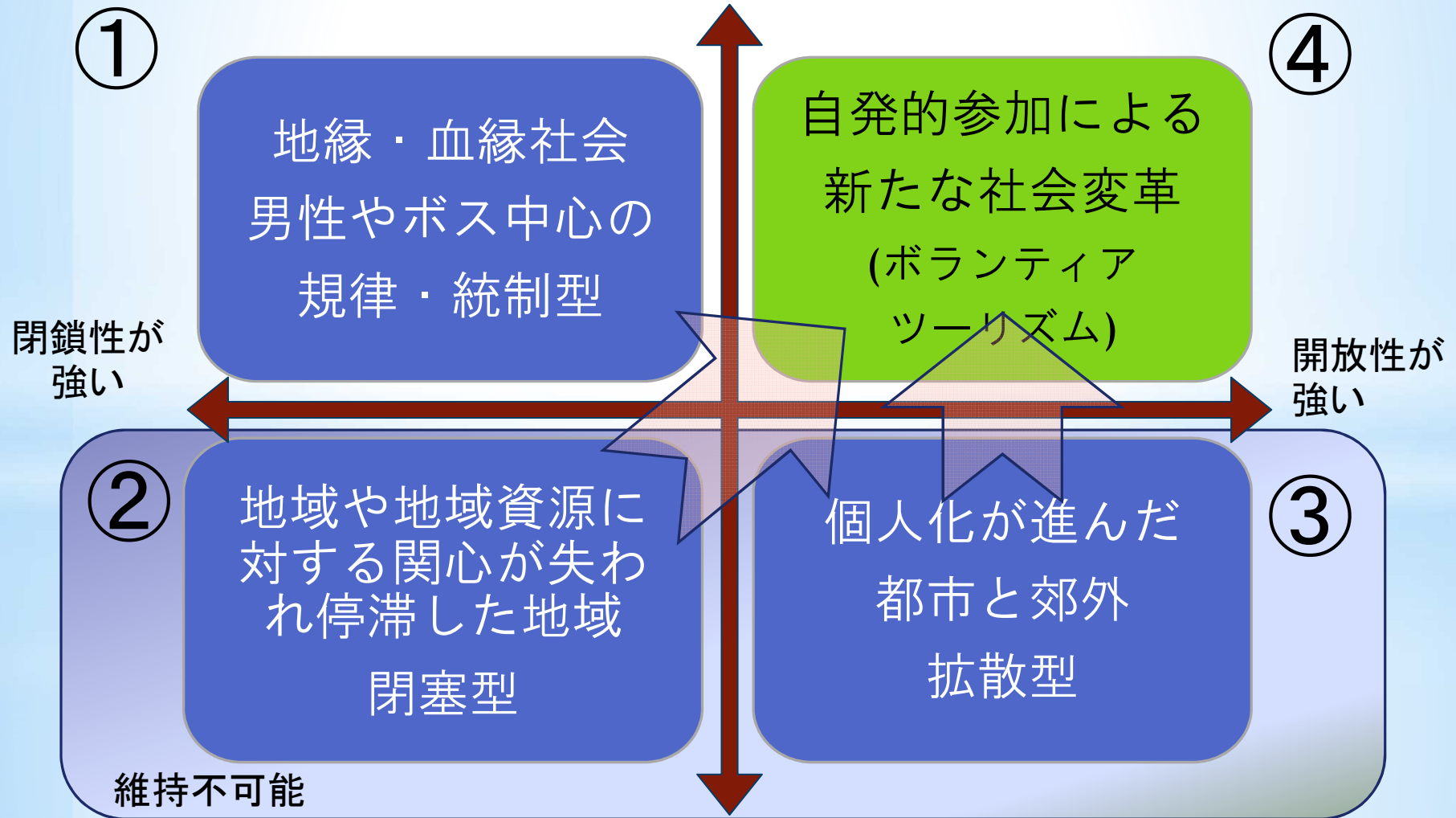
発表の内容

- 震災支援などでボランティアツーリズムが普及
- しかし、受け入れと参加者の課題整理や解決がないままに期待だけが先行
- その理由は、社会変革を目指す双方向ツールであるボランティアツーリズムのシステムの未完
- そこで、そのアーキテクチャを「ソーシャルな」設計・構築・マネジメントの視点から提案する



ボランティアツーリズムという解決の位置付け

アクター(住民・関係者)間の関係が強い



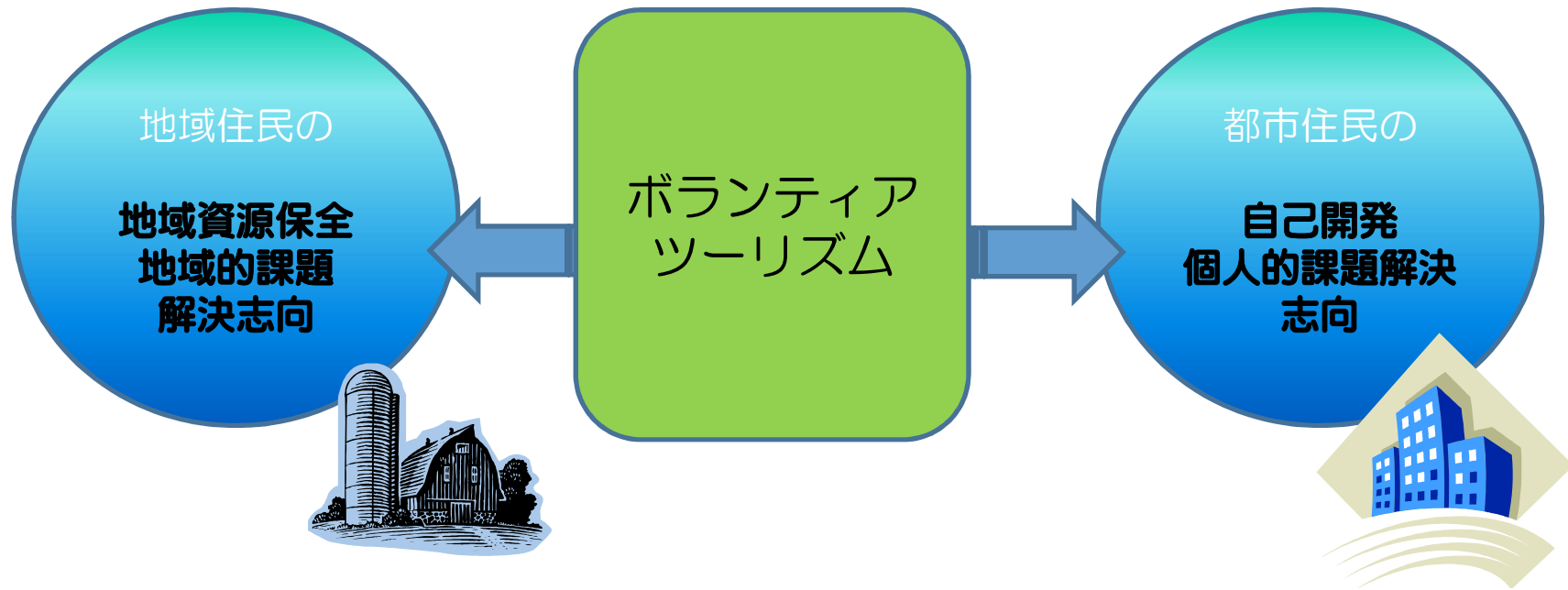
アクター(住民・関係者)間の関係が弱い

ボランティアツーリズムへの期待

- 社会的課題と個人的課題の同時解決
- 創造的解決(社会変革)の可能性
- 地域での知識やノウハウの移転・再生
- ツーリズムで交流可能性を拡大
(ツアーで行う利点)
- 「観光による社会参加」が可能
- 地域での滞在時間の長期化

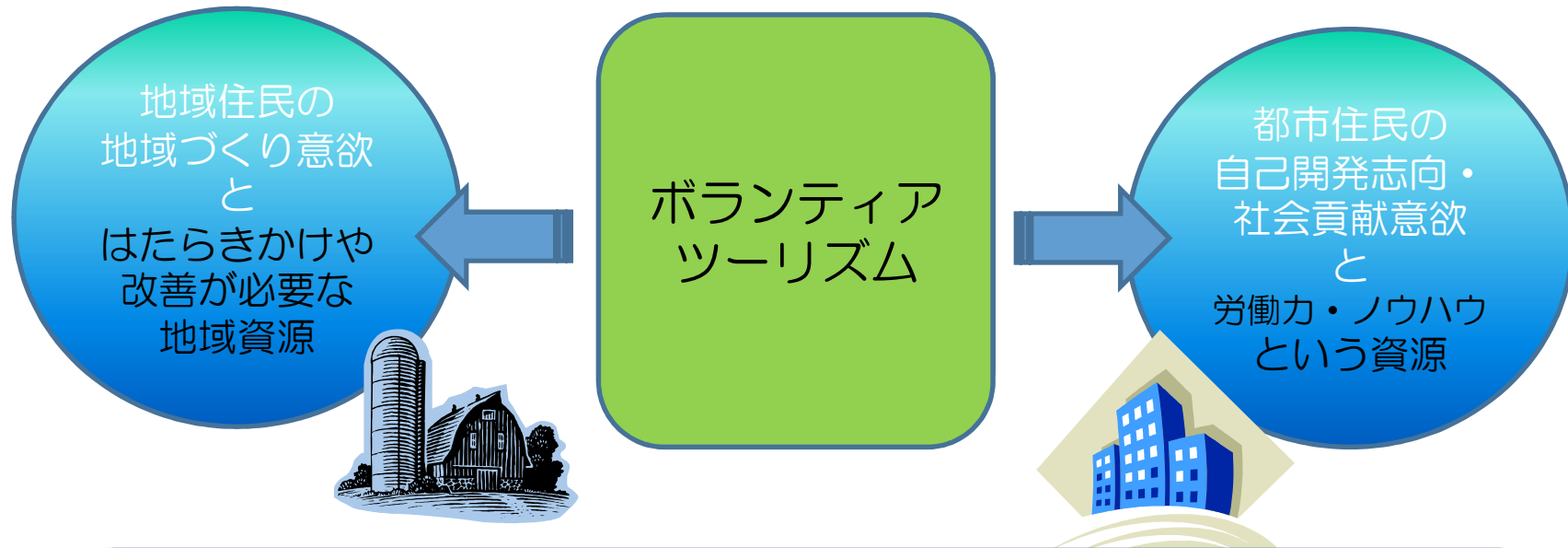
CO2削減にも寄与

個人的課題(都市)と地域的課題(地域) の同時存在



敷田麻実(2011)「ボランティア・ツーリズムで地域づくりを支える仕掛け」『新たな地域と都市の連携による地域活性化の実現を！-ボランティアツーリズムによる箱根・小田原・足柄地域の活性化の可能性を探る』発表資料を参考にして作成

ボランティアツーリズムでは 両側に資源の存在がある



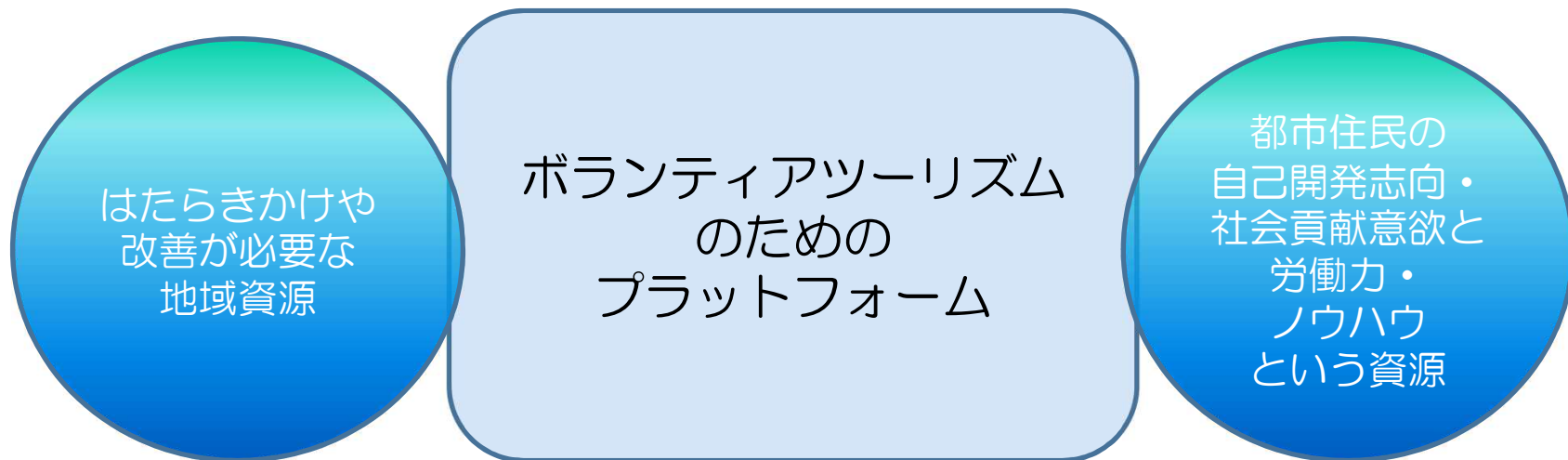
- 双方による一方的資源利用になる可能性がある
- 直接的な資源化を促進する可能性がある
- 調整機能が働きにくい

ボランティアツーリズムの持つ課題

- **都市と地域のニーズの調整**
 - 性質の異なるニーズ・課題・資源の調整
- **都市住民が地域に参加する際の「正当性」**
 - 資源利用の問題がつかまとう
- **ノウハウや知識の移転と共有**
 - 創造的な解決プロセスの実現可能性問題
- **解決プロセスを繰り返す必要**
 - 地域の課題解決には一定期間かかる
 - ボランティアの参加は一過性が基本



ボランティアアツーリズムのための 地域プラットフォームの提案 多対多のマネジメント



- 不動産取引と同じしくみ
- 資源に直接にアクセスさせないしくみ

プラットフォームとは何か

- これまで「ハードウェア」として使われていたものが「プラットフォーム」と呼ばれるようになった、「特定の内容を形にする技術」

浜野保樹 (2003) 「表現のビジネス」, 東京大学出版会, 322p. から引用

- 「基盤」や「土台」という意味を持つ
- 複数のアクターが参加し、コミュニケーションや交流することで、相互に影響し合って何らかのものや価値を生み出す場やしぐみ

敷田麻実・森重昌之・中村壯一郎(印刷中)「中間システムの役割を持つ地域プラットフォームの必要性とその構造分析」『(北海道大学)国際広報メディア・観光ジャーナル』, 14. より

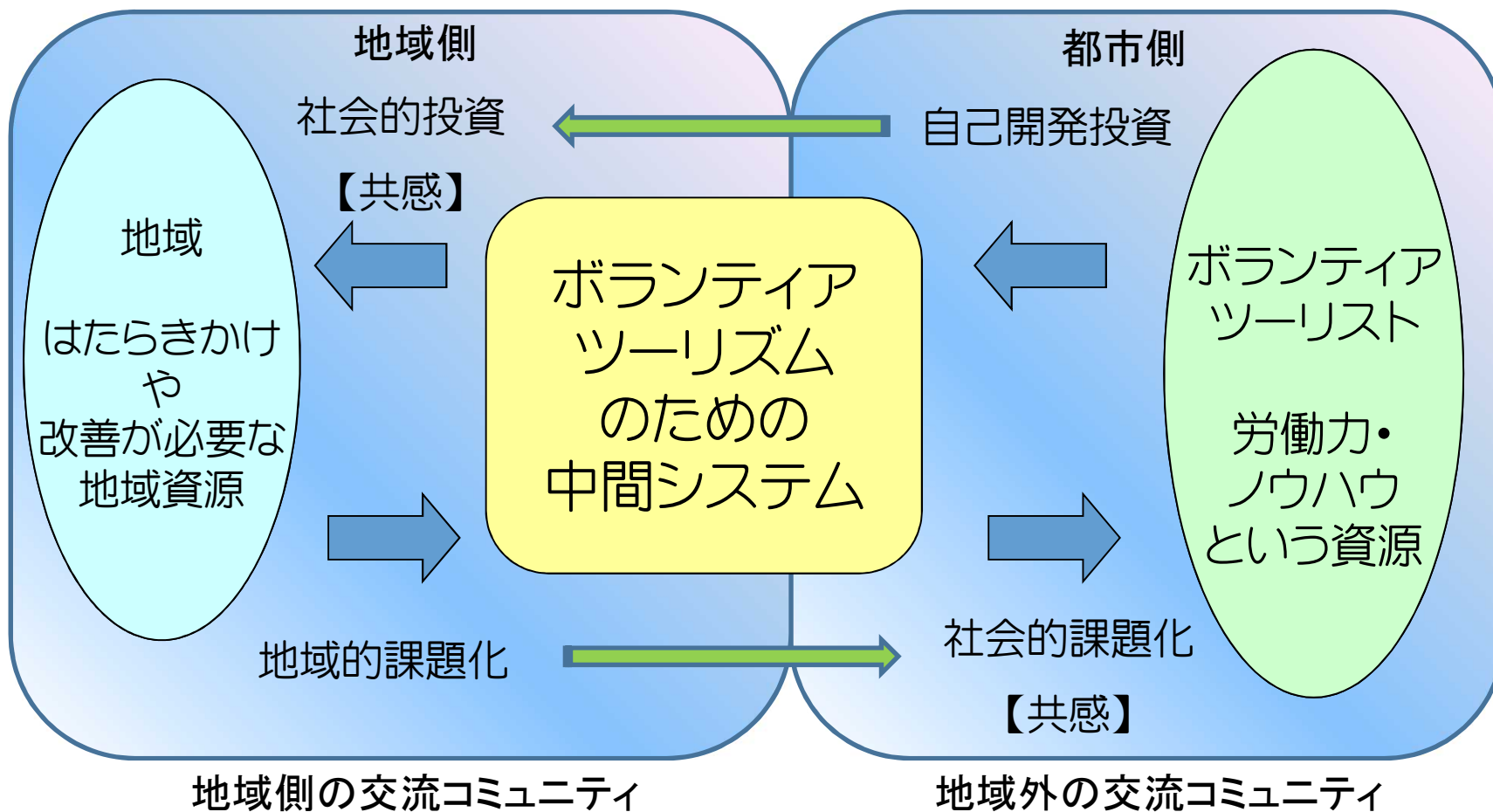


解決のためのプラットフォームの役割

- 多対多の交渉コスト・取引コストの調整
- 参加リスクを下げる(=信用保証)
- 共通のツールの提示
(用語、交流作法、規範など)
- 資源管理機能
(モニタリング・保全・活用)
- 偶然の出会い機会の創出
- コミュニティ(内部と外部の関係性)構築

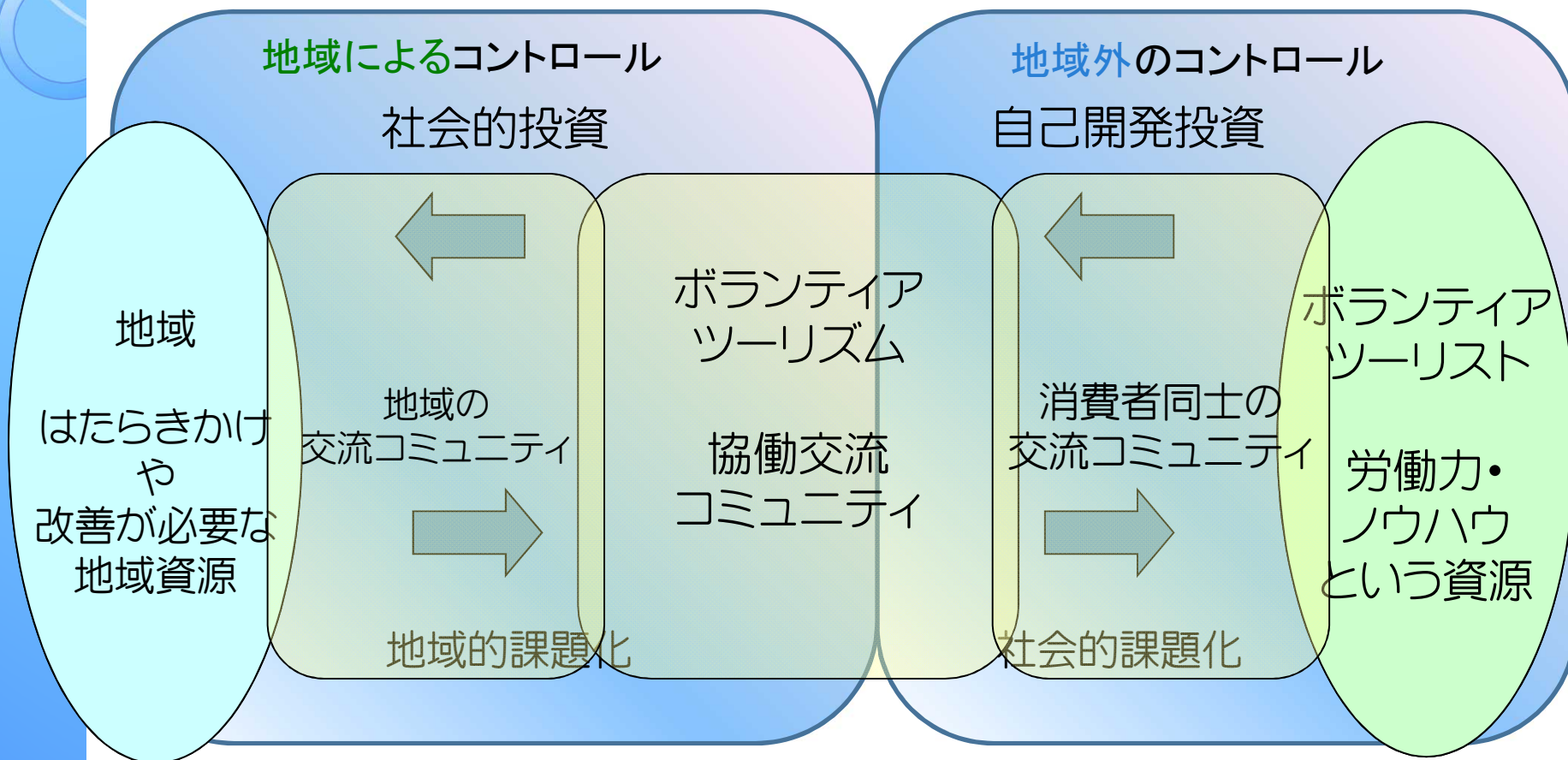


個人と社会の課題解決のための 変換装置というボランティアツーリズム



上記の「中間システム」を含むモデルは、敷田 麻実・木野 聡子・森重 昌之(2009)「観光地域ガバナンスにおける関係性モデルと中間システムの分析ー北海道浜中町・霧多布湿原トラストの事例からー」、『地域政策研究』,(7),pp. 65-72pから転載し一部改変し作成した。

交流コミュニティの再設計



中間システムに期待される役割 効率のアップとダウンの同時実現

- システムによる資源利用効率の向上
 - 持続可能なボランティアツーリズムの実現
 - 資源利用の正当性の付与、リスク削減
- 交流による資源利用の効率コントロール
 - 「交流抜きの交換」の抑止による資源利用抑制
 - 相互理解の促進
- システムからの副産物の豊潤化
 - 意図しない成果を地域と参加者に還元
 - CO2削減効果



まとめ CO2削減への示唆

- **ボランティアツーリズムで課題変換可能**
 - 地域的課題(地域づくり)を社会的課題(CO2削減)へ変換
 - 個人的自己開発投資を社会的投資に変換
- **都市と地域(両方)に交流コミュニティが必要**
 - プラットフォームと考えることもできる
- **中間システムで課題変換と投資の調整が必要**
 - 資源と利用者の間にある資源管理のしくみが必要

参考および引用文献

浜野保樹 (2003)『表現のビジネス』,東京大学出版会,322p.

橋本努 (2007)『自由に生きるとはということか-戦後日本社会論』,筑摩書房,東京都,269p.

佐藤仁 (2008)「今、なぜ「資源分配」か」,『資源を見る眼-現場からの分配論』,佐藤仁編,東信堂,東京都, pp.3-31.

敷田麻実 (2010)「援農という希望」,『東白川都市交流促進事業 農的暮らしセミナー実績報告書』,pp. 19-24p.

敷田麻実 (2011a)「ボランティア・ツーリズムで地域づくりを支える仕掛け」『新たな地域と都市の連携による地域活性化の実現を！-ボランティアツーリズムによる箱根・小田原・足柄地域の活性化の可能性を探る』発表資料.

敷田麻実 (2011b)「交流による持続可能な地域資源戦略 - 都市と地方の新たな関係性構築は何を生ま出すか」,『第73回全国都市問題会議論文集』,pp. 160-166p.

敷田麻実・森重昌之・中村壯一郎 (印刷中)「中間システムの役割を持つ地域プラットフォームの必要性とその構造分析」『(北海道大学)国際広報メディア・観光ジャーナル』14.

敷田麻実・木野聡子・森重昌之 (2009)「観光地域ガバナンスにおける関係性モデルと中間システムの分析 - 北海道浜中町・霧多布湿原トラストの事例から - 」,『地域政策研究』,(7),pp. 65-72.

依田真美 (2011)「ボランティアツーリズム:「機会」という無形資源についての考察」『第10回記念全国研究大会 (北海道第5分科会「地域における観光資源の活用とマネジメント」分科会報告)』.

END



北海道大学観光学高等研究センター 敷田麻実
ホームページのご案内

<http://www.cats.hokudai.ac.jp/~shikida/>

「敷田」で検索すると見つかります